

システム開発部 開発 1 課

AIを使ったプログラミング

2025/07/25

HOPE システム開発部

生成AIの活用状況

- FNNオンライン <https://www.fnn.jp/articles/-/898298>
 - 総務省が今年の「情報通信白書」を公表しました。そのなかで、日本の「生成AI活用の後れ」を指摘しています。
 - 今回の白書によりますと、「生成AIを利用したことがある」という個人が26.7%となり、前年度（9.1%）と比べておよそ3倍と大きく上昇しました。
 - ただ、国際社会と比較すると中国81.2%、アメリカ68.8%、ドイツ59.2%で、日本はかなり低い水準となっています。
 - 年代別に見ると、20代では44.7%が利用経験があったものの、30代は23.8%、40代が29.6%にとどまったほか、50代以上では20%を下回る結果でした。
 - 企業で生成AIを活用している割合も5割に届かず（49.7%）、総務省は「世界のAI先進国に技術・産業・利用面で日本は遅れを取っている状況で、社会生活におけるAI活用などの一層の推進が必要」としています。

AIはどこまで活用できるか？

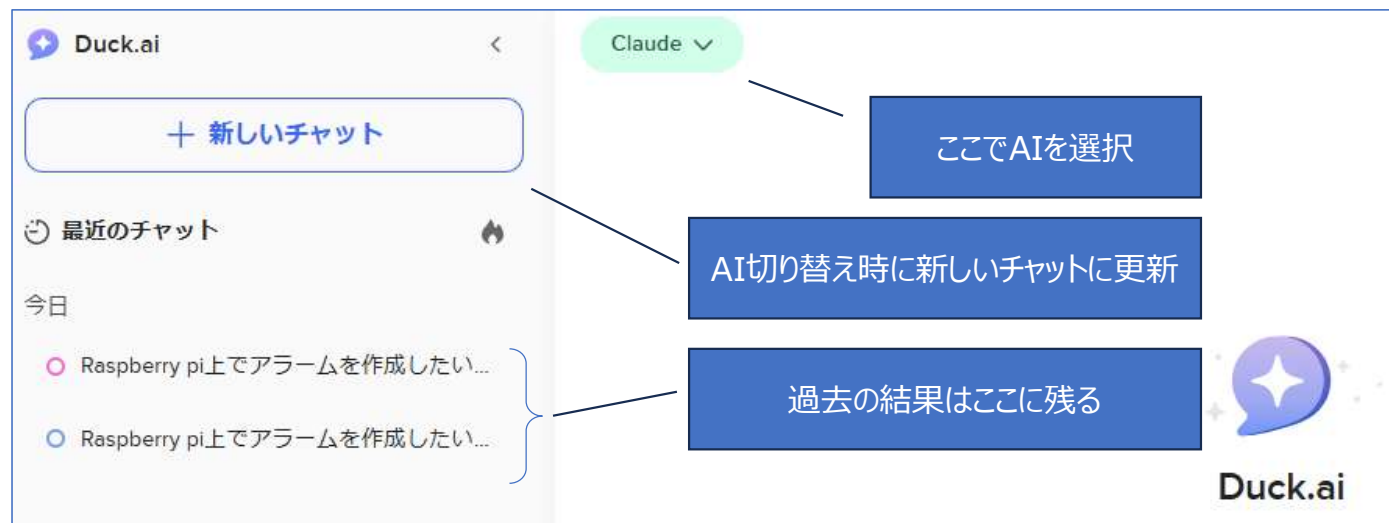
- 以下の縛りで、プログラム作成にトライします
 - AIのみを使う(Webからの情報収集は禁止)
 - 複数のAIから良さそうなものを選ぶ(同じ要件に対して出力の違いを体感)
 - 未経験の言語を選択(知識が無い状態で、AIが提案したコードを実行してみる)
- 要件
 - Raspberry pi上でアラームを作成したい。複数のアラーム時刻が設定可能。アラーム音はMP3。言語はRustを使ってみましょう。
 - WindowsPCでインターネット回線の速度を定期的に計測したい。言語はPythonなど。（自分が学習したい言語を指定）

AIはどこまで活用できるか？

- 複数のAI利用環境

- DuckAiを利用します

- <https://duckduckgo.com/?q=DuckDuckGo+AI+Chat&ia=chat&duckai=1>
 - 5つのAIチャットが選択可能



AIはどこまで活用できるか？

- Raspberry pi へRust開発環境のインストール
 - 不明な点があれば、各AIに確認
 - 各AIの回答の差分を確認し、自分が一番正しそうと思った回答を実施
- アラームの実装
 - 要件に関する回答（コード）を、各AIに確認
 - 各AIの回答の差分を確認し、自分が一番正しそうと思った回答を実装
 - Build後、実行して、予定の時刻に音が鳴ることを確認

AIはどこまで活用できるか？

- PCへC#開発環境のインストール
 - 不明な点があれば、各AIに確認
 - 各AIの回答の差分を確認し、自分が一番正しそうと思った回答を実施
- SpeedTestの実装
 - 要件に関する回答（コード）を、各AIに確認
 - 各AIの回答の差分を確認し、自分が一番正しそうと思った回答を実装
 - Build後、実行して、回線速度が測定できることを確認

わかったふり-ポチヨムキン理解の限界

<https://note.com/329n/n/n8adf7da6d65d>

- AIが「ある概念の定義」を正しく説明できるにもかかわらず、「その定義を応用して実際に使う」段階になると誤りを犯す
 - ベンチマーク上の質問には正答するため、概念を理解しているように見える
 - しかし、人間ではありえない方法で概念を誤解しており、真の理解には至っていない状態